

# エンドウさび病の発生生態と防除対策

農業試験場 主査研究員 井沼 崇

## 【要約】

日高地域におけるエンドウさび病（図1）の初発時期は11月下旬～12月下旬で、その後も栽培終了時期まで継続して発生した。薬剤防除試験によると、アフェットフロアブル、カナメフロアブル、アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、イオウフロアブル、ペンコゼブフロアブルの効果が高かった。

## 【背景・ねらい】

エンドウ主産地の日高地域では、施設栽培の秋まき冬春どりの作型においてさび病が問題となる。多発すると、草勢の低下により栽培期間が短縮し、収量が減少する。本病の先行研究事例はほとんどないため、発生生態に不明な点が多く、防除も困難であった。そこで、発生実態の解明と、各種薬剤の防除試験を行った。



図1 エンドウさび病

## 【成果の内容・特徴】

### 1) 日高地域における発生状況

11月～翌年4月の調査によると、日高地域における初発時期は11月下旬～12月下旬の範囲であり、その後も栽培終了時期の4月まで発生が増加した（図2）。

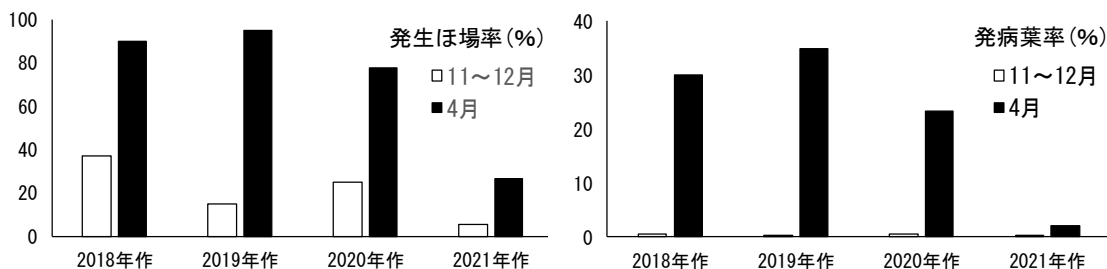


図2 日高地域の施設栽培エンドウにおけるさび病の発生状況

注) 2018年作 12/28初発 (12/28、2019/4/16調査) 2019年作 12/ 5初発 (12/ 5、2020/4/17調査)  
2020年作 12/ 9初発 (12/ 9、2021/4/15調査) 2021年作 11/24初発 (11/24、2022/4/15調査)

### 2) 各種薬剤の防除効果

ポット試験によると、アフェットフロアブル、カナメフロアブル、アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、イオウフロアブル、ペンコゼブフロアブルの効果が高かった（表1）。

表1 各種薬剤のエンドウさび病防除効果（ポット試験<sup>1)</sup>）

FRACコード <sup>2)</sup>	供試薬剤	適用病害 <sup>3)</sup>	希釈倍数	発病葉率	防除価
7	アフェットフロアブル	灰色かび病、菌核病、 <b>さび病</b> （未）	2000倍	0	100
7	カナメフロアブル	菌核病、灰色かび病（未）、 <b>さび病</b> （さや）	4000倍	0	100
11	アミスター20フロアブル	灰色かび病、菌核病、褐紋病（さや、実）	2000倍	0	100
11	ストロビーフロアブル	<b>さび病</b> （さや、実）	3000倍	0	100
M2	イオウフロアブル	うどんこ病（野）	500倍	0.8	96.2
M3	ペンコゼブフロアブル	褐紋病、褐斑病（さや、実）	500倍	0.8	96.2
	無処理			21.2	

1) 1剤あたりサヤエンドウ6ポット供試、薬剤散布翌日にさび胞子懸濁液を噴霧接種、接種16日後に小葉の発病調査

2) 有効成分を作用機構により分類したコード

3) ( ) 内は適用作物を示す（2022年12月時点、さや：さやえんどう、実：実えんどう、未：豆類（未成熟）、野：野菜類）